

令和7年度 第2回 国立大学法人奈良国立大学機構理事長選考・監察会議議事要旨

日 時 令和7年11月20日（木）15時21分～16時06分
場 所 奈良国立大学機構第一会議室及びオンライン参加
出席者 國枝委員、松本委員、近藤委員、村岡委員、北岡委員、鈴木委員、
越野委員、今委員、和田委員、吉田委員、酒井委員、遊佐委員
列席者 青山監事
事務局 三谷事務局長、沓澤事務局次長、向機構総務課長、矢倉奈良教育大学総務課長、
林機構総務課課長補佐、隈井機構総務課総務係員
議 長 松本委員

議事に先立ち、前回会議の議事要旨を確認し、これを了承した。

審議事項

1. 大学総括理事（学長）候補者案について

議長から、資料1-1により、理事長から令和8年度からの大学総括理事（学長）候補者案に関する意見聴取の申入れがあったこと、そのため、このあと、理事長から口頭による説明を聴き、理事長と各委員との意見交換を経た後、申入れに対する本会議の回答について議論したいと考えているとの発言があった。

理事長から、宮下俊也氏については、これまでの経験と豊かな発想を基に大学の将来に対する明確なビジョンを有していること、構想の実現に向けて学内外の関係者と丁寧なコミュニケーションを図りながら取組を進めていること、諸課題を的確に認識して解決に向けた努力を推進していることから、適任であると判断したとの発言があった。また、高田将志氏については、厳しい財政状況を的確に認識し、収入確保と支出削減に向けた取組を進めていること、将来ビジョンに沿い、学内外の関係者と丁寧にコミュニケーションを図りながら、大学院改組などの改革に着手していること、実直な人柄で信頼される人間性を備えていることから、適任であると判断したとの発言があった。

その後の意見交換において、委員から、将来的なリーダー育成への取組について意見があり、理事長から、法人の運営体制において適切な大学総括理事を選任するとともに、理事長自身もバトンタッチに備える必要性を十分に認識しており、候補者両名に次期リーダーの育成を指示するだけではなく、ガバナンスを共通で支える立場として、新しい機構の体制作りに向けて尽力したい、との発言があった。

また、委員から、大学が抱えている課題に対して各候補者がどのように対処しようとしているか、将来構想を含め学内の教職員からの理解が得られるかという点において、今後の進め方が重要であるとの意見や、新しい取組を行う際には、経験を有する人材が候補者両名をサポートする体制の整備が必要であるとの意見があった。これらの意見に対し、理事長から、しっかりとした組織を固めるためには、学内外からのサポートを強化する必要があることを改めて認識した、との発言があった。

さらに、委員からは、候補者両名には厳しい財政状況の中でも前向きな方策をとりまとめることを期待したい、との意見や、候補者両名が目指す目標と教員が個々に考える方向性には多少の違いがあったとしても、学生のために大学が良い方向に進むよう尽力してほしい、との意見があった。

理事長の退席後に審議を行い、その結果、候補者両名は大学総括理事として、理事長とともに機構の経営と円滑な大学運営との両立に資する者であると賛同し、資料1

－ 2 のとおり、理事長へ回答することとした。

2. 理事長の業務執行状況の確認手続きについて

議長から、理事長の業務執行状況の確認は、資料 2－1「国立大学法人奈良国立大学機構理事長の業務執行状況の確認に関する基準」に基づき実施することとなっており、令和 4 年度から令和 6 年度の 3 年間はこの基準に沿って確認を行ってきたが、榊理事長が令和 7 年度からの 3 年間の任期で再任されたことを踏まえ、改めて、具体の確認方法等について、本会議で議論したいとの発言があった。

事務局から、令和 7 年度を任期 1 年目、令和 8 年度を任期 2 年目、令和 9 年度を任期 3 年目と捉え、同基準に基づき必要事項を定めた資料 2－2 に沿って業務執行状況の確認を進める方針案について説明があった。

委員による審議の結果、資料 2－2 に沿って確認手続きを進めることで承認した。

3. その他

特になし

以 上